

手をつなぐ親と子



令和6年12月 発行:登別市教育委員会・学校教育グループ「子育てコラム」 No. 40

子どもの叱り方～叱るのは苦手？

市立小中学校は12月25日から20日間の冬季休業に入ります。お子さんが家庭内で過ごす時間が長くなることに伴い、年末年始をはじめとして、お子さんと接する時間も増えます。その接し方の中で、保護者の頭を悩ませることのひとつに『叱り方』があげられるのではないのでしょうか？

今回は子どもの叱り方についてふれたいと思います。



叱るよりもほめること

このことは子育てに限らず、良好な人間関係を築く上で大切ですが、子どもが人として間違っただけをしたなら、正しい行動に導くために叱ることは親の大切な役目です。

また、叱ることも重要ですが、その後のフォローも大切です。叱った後により良い行動を見せた場合は、ほめることで子どものモチベーションが向上し、子どもの成長につながります。

《上手な叱り方1》

子どもの目をしっかり見る

他のことをしながら叱っても子どもの心には響きません。子どもと目線の高さを合わせるようにすると威圧感を与えません。

乳児でも親の目を見て表情や感情を読みとります。子どもは親の目から信頼や愛情を感じ取っているようです。目から伝わった感情は、子どもの精神安定にもつながっていると考えられます。

《上手な叱り方2》

叱る理由を伝える

子どもはなぜ叱られたのか理解していないこともあります。叱られている理由がわからないままだと、同じことを繰り返してしまうかもしれません。

叱る理由を説明することは大事なことで、具体的に何が悪かったのか伝えるようにします。理由に納得すると成長や改善が見られるようになります。

《上手な叱り方3》

改善したらほめる

以前に叱ったことを、子どもが改めたときには必ずほめることが大切です。叱られてばかりだと、心の内に反発心が芽生えてしまいます。

たとえ小さなことでも、「今日は約束した時間が守れてよかったね」「手伝いをしてくれたので助かったよ」などと、具体的な内容をほめて共感することが大切です。

また、時には失敗することもありますますが努力したことを認めてあげましょう。

《避けるべき叱り方1》

感情的になって怒鳴る

感情的に大きな声で怒鳴ることは、自分が腹を立てていることを伝えているだけとなります。叱るという行為は、子どもを正しい行動に導かなければなりません。怒鳴ってしまうと、威圧的な態度に委縮してしまいます。そうすると、親の機嫌を伺うようになってしまうこともあります。

《避けるべき叱り方2》

人と比べて否定する

兄弟姉妹や他の子ができることがなぜできないのかなどと、他と比較する叱り方は、劣等感や自己肯定感のなさを育ててしまい、何事にも諦めがちになる可能性があります。比較するのであれば、以前の本人の姿と比較して、現在は改善されていることを取り上げてほめることが効果的です。

《避けるべき叱り方3》

しつけとしてたたく

しつけと称してたたくこと（暴力）で、子どもには、たたかれたことが恐怖として記憶される可能性があります。『しつけでたたく必要性はない』と日常から心に決めておくことが大切です。



ひとりで悩まず相談しましょう

何か困りごとがあれば、遠慮なく相談してください。

◎登別市いじめ相談（教育相談）電話

☎85-0085（月～金曜日 9時から17時）

◎登別市教育指導室 『メール相談』

Eメール：tsunagu@city.noboribetsu.lg.jp